

御池鉄工所、健康経営に注力

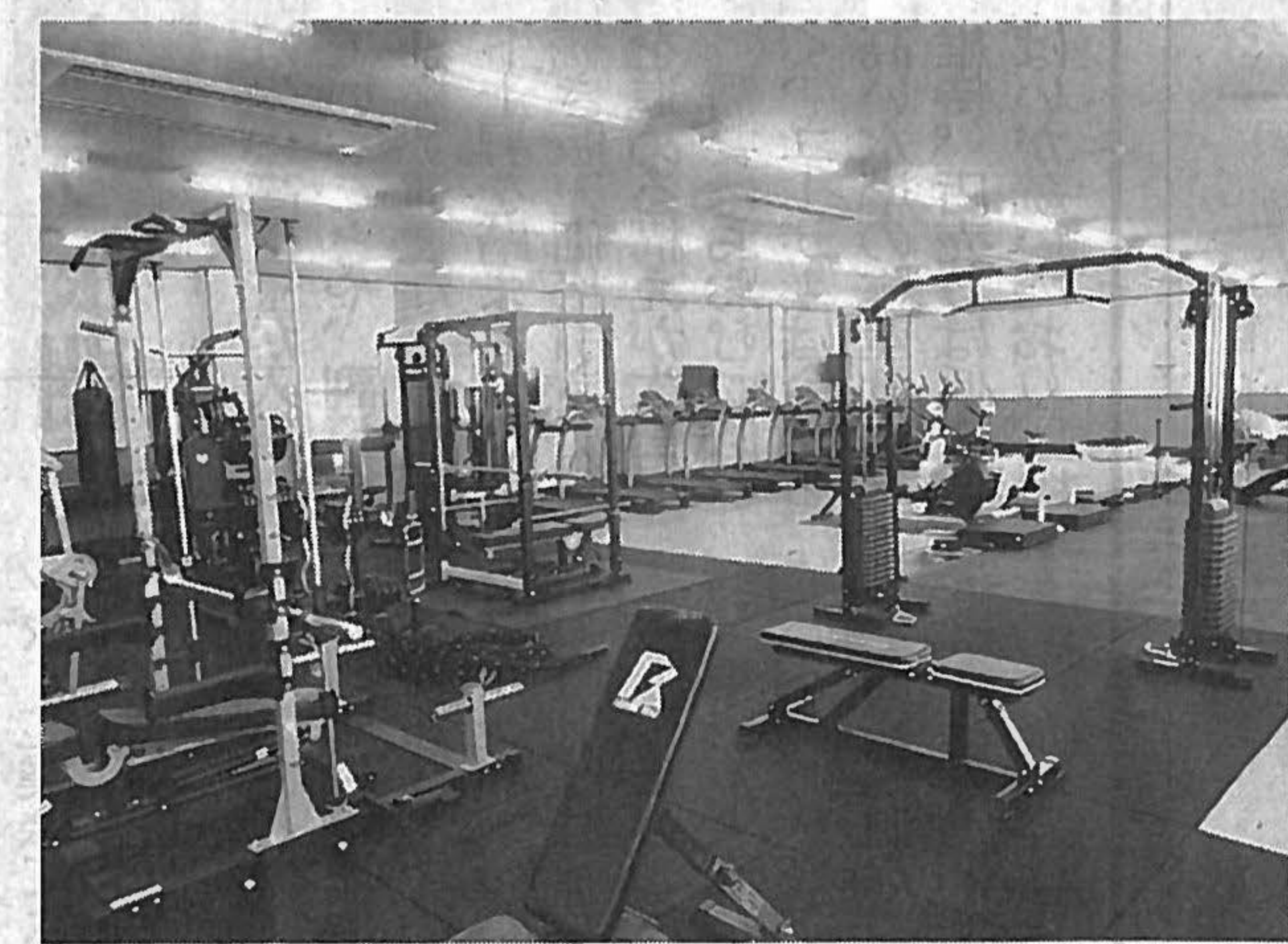
リサイクルプラント製造の御池鉄工所（本社・広島県福山市、小林秀匡社長）は、健康経営に力を入れている。会社の技術力を落とさないためにも、社員には健康で長く働いてもらいたいと、手当や制度の拡充を進める。希望する社員を対象に、体脂肪率の数値によって賞与を上乗せするなど、ユニークな制度を取り入れた。目標を明確にすることで、本気で健康と向き合える仕組みづくりを継続している。



小林社長

同社は1953年に創業し、89年に現在地に移転した。移転後は事業規模の拡大に伴い、25人だった社員数は現在160人に増えている。当時から働く

社員の40～50歳代になっており、今まで以上に健康には気を付けてもらいたいと、21年7月からは現在160人に増えている。当時から働く



社員が自由に使用できるトレーニングジム

ユニーク制度で健康守る

体脂肪管理し賞与上乗せ

2泊3日で精密検査を行う人間ドックの費用を会社が全額負担する制度も設けた。40歳以上の社員が対象で、5年に1回受診できる。社員には気軽に受けてもらうため、検査中の3日間は欠勤や有休消化ではなく通常の出勤扱いとし、積極的な受診を推奨している。

健康に関する取り組みは、御池健康化計画を始める以前からも進めていた。18年には、栄養バランスが整った食事をしてもらいたいと、本社敷地内にある旧本社事務所棟の1階を改装し社員食堂とした。本格的な厨房設備を設置し、専属の調理スタッフが日替わりの定食や丼ものなどを提供している。一人暮らしの社員を対象に、帰宅後に食べる夕食も用意する。

19年には、同棟の2階にトレーニングジムを開設。社員は勤務前、昼休憩時間、勤務後に自由に使用できる。肥満度の指標となるBMIが33を超える社員には、週3回専属のトレー

月から「御池健康化計画」をスタートした。

計画を始めたのは、健康診断の委託先から、社員の肥満率が高いと指摘されたことがきっかけだった。小林社長も、体重が気になりはじめダイエットを終えたところだったとい

倍以上になった。

健康上乗せ制度では、無理なダイエットをして体を壊さないように、ルールも徹底している。体脂肪率や筋肉量が分かる家庭用の体組成計を社員に貸与しており、同月内に4日連続で基準値となったことが2回以上ある

スマートフォンと連動し

ており、データは同社の総務課が管理する。21年7月から始めた制度だが、21年末に行った健康診断ですでに大きな結果が出ている。前年は高血圧と診断された社員が58人いたが、15人にまで減った。

うに、今年の夏には40

50歳代の社員80人を対象に、腸内環境を調べる検査を行った。サイキンソー（東京都）が実施している腸内の善玉菌や悪玉菌のバランスを把握する「腸内フローラ検査」で、判定結果を基に必要な運動量や摂取する食べ物など、改善するべきポイントを細かく分析し

今年3月には、経済

産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2022」（中小規模法人部門）に選ばれた。今後あらゆる観点から社員の健康を守る制度を取り入れ、健康に対する意識を高める活動も継続する。社員が健康な体を保ち、これまで以上に仕事もプライベートも充実できる会社を目指していく方針だ。



毎日約100人分の昼食を提供する社員食堂

御池健康化計画の目

玉となる制度は、体脂肪

な

健康の管理ができるよ

は、週3回専属のトレ

時間を業務時間中にジ